

1. 背景

今年度、地域推薦入学生が初めて卒業するにあたり、制度の評価のために推薦市町村への訪問調査を実施した結果、制度の課題が明確となるとともに、関係機関と一層の連携を図ること、さらに地域推薦入学生支援を強化することの必要性への示唆を得たため。

2. 講座の概要

1) 日時・場所：令和元年12月26日(木) 13:00～16:00 講義室他

2) 企画・実施：地域推薦入学生支援専門部会、入試委員会、就職対策委員会

3) 講座の目的・目標

令和2年度地域推薦入試の合格者(以下合格者)と保護者、地域推薦入学在學生(以下在學生)、市町村担当者、教員が一堂に会し、「推薦を受けた地域の看護職者に就き、地域住民の健康を担い、将来リーダー的役割を果たすことができる優れた看護職者の育成と確保を目指す」という地域推薦入試制度の目的を確認するとともに、共に地域医療について考えることを通して、地域推薦入学生としての大学生活がイメージできるようになることを目的とする。

(1) 地域推薦入学生としての自覚を育み、地域医療について考えるきっかけとなる

(2) 地域推薦入学生としての4年間がイメージできる

(3) 学生、保護者、市町村担当者、教員間のネットワークのきっかけができる

(4) 地域医療を志す先輩たちとの交流ができる

4) プログラム

<第1部>地域医療における活動報告会

(1) 地域医療で活躍する卒業生の活動報告

美郷町国民健康保険西郷病院 看護師：楠田真央(1期生)、鴨田美憂(19期生)

(2) 入学までの過ごし方

①「地域推薦入学生の学生生活の手引き」の説明

(手引きの内容：地域推薦入学生に関わる学生生活〔年度の目標の立案と評価、ポートフォリオの作成〕、市町村と関わる際の注意点、大学での支援等)

②入学前課題「推薦市町村の地域の特性について把握しよう」の説明

(課題の内容：①地域の情報を整理し、推薦市町村の現状及び特徴を把握する。②地域医療を担う医療機関を一か所選択し、なりたちをまとめる。③①②を元に「推薦市町村の地域の特徴と求められる地域医療」のテーマでレポートする)

(3) 合格者・保護者、市町村担当者、教員との三者面談

<第2部>

(1) 分科会1：市町村と大学との意見交換会

①「大学が育成を目指す看護人材について」の説明 ②「地域推薦入学生への市町村での支援について」の説明 ③意見交換

(2) 分科会2：合格者と在學生との交流会

①合格者の紹介 ②ポートフォリオガイダンス ③グループ間での自己紹介・懇談

④卒業生(楠田、鴨田)より一言エール

(3) 個別面談

・2年生・3年生は市町村担当者・教員との三者面談、1年生・4年生は市町村担当者との二者面談

3. 講座の評価

1) 参加者数：70名。対象者はほぼ出席。

内訳：合格者及び保護者12名(合格者は全員出席、保護者は1名欠席、1組は両親出席)

在學生19名(4名欠席。後日補講及び三者面談実施)

市町村担当者17名(推薦市町村13市町村全員出席。4か所は複数名出席)

2) プログラム内容について

(1) 学生アンケートより、全員が「卒業生の活動報告」「交流会」について、<大変良かった・良かった>と評価し、本講座が卒業後に地域に就職する上で<大変参考になった・参考になった>と評価した。

【自由記述からの抜粋】

項目	合格者	在学生
活動報告について	・大学4年間でどんなことを意識して過ごしていけばよいのか学ぶことができた・働く上で大変なこと等詳しく知ることができてよかった。・地域医療がどのようなものか具体的に知ることができた。他	・地域の特徴と看護師として働いてわかる視点を知ることができた ・卒業後すぐ地元就職するか悩んでいるが、話を聞いて一度地元の医療機関に行ってみようと思った。・地域で働くことへの利点や魅力がとても伝わった。・新人の方とベテランの方、双方の活動を知ることができ、今後のことについてイメージしやすかった。他
交流会について	・先輩方がとても優しくかった。入学前の緊張感が少し弱まった。・入学する前にわからないことが聞けてよかった ・地域での活動や学校生活についても知れ、とてもためになった。他	・先輩の話聞いてこれからどんな感じになるのか知ることができた・進路選択を考える上で多くのことを考えられた。・私自身も先輩の話や他の市町村の現状を理解することができた・どのような地域活動を行っていきたいかを在校生や新入生に話せる良い機会となった。他
講座が卒業後に地域に就職することに役立つかについて	・大学4年間頑張ろうと思った。 ・地域について詳しく知ってから、地域に貢献したいという気持ちが強くなった。・自分の将来像を想像することができた・地域のことをたくさん知ることができた。他	・実際に働いている人の話を聞いてどの様な人材がこれから必要なのかわかった。・今後自分が何をしていけばいいか、見通しを立てることができた。・今後自分からも市町村へアクションを取ろうと思えた。・他の市町村がどのような市町村と連携をとっているか理解できた・具体的に地域での就職についてイメージを描き始めるきっかけとなった。・全体で集まる機会があったことで他学年との交流もできたし、市町村担当者の方とも面談の時間が持てた。他

(2) 市町村との意見交換では、「学生のニーズに応じた支援ができていないか不安」「どのような支援をしていったらよいか」などの困難が語られたが、「早い段階からの意見交換(面談)で学生や保護者の気持ちがわかった」「入学前の講座はありがたい。意思疎通が図られた」など三者面談を評価するとともに、「これからも大学と情報を共有していき」との反応があった。

(3) 三者面談では、学生からの「保健師・助産師を希望する場合の対応が可能か」や「どこの病院に就職したらいいのか」など就職への不安に市町村担当者・教員が助言を行うとともに、学生からの「地域活動への参加希望」について、市町村担当者から次年度に支援計画に反映されることが回答された。また合格者については「課題についての資料提供」が市町村担当者から申し出られたり、学生からの「入学後理系の科目についていけるか」という不安に、教員から入学前の学習や入学後の支援についてアドバイスをを行った。このように、三者面談では、学生への支援の方向性を共有するとともに、教員や市町村担当者のそれぞれの立場から助言を行うことができ、学生の不安や疑問の解消に役立つ機会となった。また、市町村担当者は「市町村との連絡の取り方等社会性に関する事項をこれからも指導してほしい」など大学への要望を表現することができ、有意義な面談ができた。

以上、参加者数及び学生及び市町村担当者の反応より、講座の目標は概ね達成できたと評価できた。

4. 今後の地域推薦入学生へ支援について

これまでの年3回の面談・年2回の交流会の実施に加え、更に以下の内容を取り入れ、地域推薦入試制度の目的が達成されるように支援を強化していく

- 1) 地域医療を支える看護学生スタートアップ講座の継続開催
- 2) 入学前課題「推薦市町村の地域の特徴と求められる地域医療」を課す：地域への愛着形成
- 3) ポートフォリオの作成を課す(在学生にも適用)：目標像の確認と成長の自己評価、面談への活用

- 4) 交流会（ピアサポート）の強化：卒業生も交え地域医療について考える意見交換の場の設定
- 5) 「地域推薦入学生の学生生活の手引き」の活用
- 6) 2年次、3年次には学生、市町村担当者、教員との三者面談を実施：就職についての方向性の共有